

百

昭和七年四月

保健衛生調査會第十六回報告書

昭和七年四月
東京市立保健衛生院
調査會第十六回報告書
(三三三)



国立公衆衛生院附属図書館



00018290

保健衛生調査會

P-A
16
17

例言

本篇ハ昭和六年四月ヨリ昭和七年三月ニ至ル本會議事ノ概要ニツキ輯録シタルモノナリ

昭和七年四月

保健衛生調査會

国立公衆衛生院附属図書館	
受入先	松浦十四郎先生寄贈
受入日	98. 3. 10
登録番号	72665
所在	
Library, National Institute of Public Health	

保健衛生調査會第十六回報告書

目次

第一章 職員	一頁
第二章 特別委員	七
第三章 議事	二
第一節 會議ノ回数	二
第二節 議案ノ件數	二
第三節 特別委員會議事大要	三
一 衛生思想普及ニ關スル特別委員會	三
二 民族衛生ニ關スル特別委員會	四
三 農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會	八

昭
和
七
年
三
月
三
十
一
日
現
在

第一章 職員

會
長
員

一 番
二 番
三 番
四 番
五 番
六 番
七 番
八 番
九 番
十 番
十 一 番

昭和七年三月三十一日現在

宮	富	富	松	伯爵 柳	林	三	瀨	高	永	磐	泰	鈴
川	士	田	野	柳	禮	宅	川	野	田	瀨	人	木
米	川	愛	鶴	澤	春	鏡	昌	本	井	雄	雄	壯
次	游	次	平	保	雄	三	世	岩	五	三	三	喜
		郎	惠	惠	雄	三	郎	三	次	郎	郎	三
								郎	次	郎	郎	郎

十二番
十三番
十四番
十五番
十六番
十七番
十八番
十九番
二十番
二十一番
二十二番
二十三番
二十四番
二十五番
二十六番

宮 米 大
光 土田 川 健 輔
富 田 愛 大 順
長 興 父 郎
三 田 定 則
内 野 祥 仙
岡 村 龍 彦
北 島 多 岩
栗 裡 本 岳 庸 三 勝
兵 田 共 正 三
佐 藤 伯 兼 矩
秦 佐 八 郎
藤 本 井 喜 達 三 地
唐 澤 光 德
矢 作 榮 藏

二十七番
二十八番
二十九番
三十番
三十一番
三十二番
三十三番
三十四番
三十五番
三十六番
三十七番
三十八番
三十九番
四十番
臨時委員

奧 村 吉 三
三 宮 慶 之 助
河 原 田 稼 吉
大 島 辰 次 郎
横 手 千 代 之 助
北 豐 吉
栗 山 重 八 信
栗 津 清 亮
宮 島 幹 之 助
龜 田 豐 治 朗
古 瀬 安 俊

四十一番
四十二番
四十三番
四十四番
幹事

岩住良治
那須皓
武藤喜一郎
津野慶太郎
白松喜久代
三浦直彦
高野六郎
南崎千雄七
野邊地慶三

備考

安達謙藏ハ昭和六年十二月十三日依願内務大臣ヲ免セラレ會長又退ク
中橋徳五郎ハ昭和六年十二月十三日内務大臣ニ任セラレ會長トナリ昭和七年三月十六日依願内務大臣ヲ免セラレ會長ヲ退ク
内閣總理大臣犬養毅ハ昭和七年三月十六日兼内務大臣ニ任セラレ會長トナリ昭和七年三月二十五日

兼任内務大臣ヲ免セラレ會長ヲ退ク
司法大臣鈴木喜三郎ハ昭和七年三月二十五日内務大臣ニ任セラレ會長トナル
齋藤隆夫ハ昭和六年四月十五日依願内務政務次官ヲ免セラレ委員ヲ退ク
古屋慶隆ハ昭和六年四月十五日内務政務次官ニ任セラレ昭和六年四月廿四日委員被仰付、昭年六年十二月十五日依願内務政務次官ヲ免セラレ委員ヲ退ク
松野鶴平ハ昭和六年十二月十五日内務政務次官ニ任セラレ昭和七年一月二十三日委員被仰付
潮惠之輔ハ昭和六年八月八日依願内務次官ヲ免セラレ委員ヲ退ク
次田大三郎ハ昭和六年四月十五日内務省警保局長ニ任セラレ委員ヲ退キ昭和六年八月八日内務次官ニ任セラレ同年八月二十四日委員被仰付、昭和六年十二月十三日依願内務次官ヲ免セラレ委員ヲ退ク
河原田稼吉ハ昭和六年十二月十三日内務次官ニ任セラレ昭和七年一月二十三日委員被仰付
一宮房治郎ハ昭和六年四月十五日依願内務參與官ヲ免セラレ委員ヲ退ク
小山谷藏ハ昭和六年四月十五日内務參與官ニ任セラレ同年四月二十四日委員被仰付、昭和六年十二月十五日依願内務參與官ヲ任セラレ委員ヲ退ク
藤井達也ハ昭和六年十二月十五日内務參與官ニ任セラレ昭和七年一月二十三日委員被仰付

三邊長治ハ昭和六年四月十五日内務省地方局長ニ任セラレ同年四月廿四日委員被仰付、昭和六年十月十八日宮城縣知事ニ任セラレ委員ヲ退ク

大野綠一郎ハ昭和六年十二月十八日内務省地方局長ニ任セラレ昭和七年一月二十三日委員被仰付同年一月二十九日警視總監ニ任セラレ委員ヲ退ク

赤木朝治ハ昭和六年十二月十八日依願内務省衛生局長ヲ免セラレ委員ヲ退ク

大島辰次郎ハ昭和六年十二月十八日内務省衛生局長ニ任セラレ昭和七年一月二十三日委員被仰付

安井英二ハ昭和六年十二月十八日社會局部長ニ任セラレ昭和七年一月二十三日委員被仰付、昭和七年三月四日内務省地方局長ニ任セラレ

武藤喜一郎ハ昭和六年九月三日臨時委員被仰付

津野慶太郎ハ昭和六年九月三日臨時委員被仰付

西崎弘太郎ハ昭和七年三月九日依願衛生試驗所技師ヲ免セラレ委員ヲ退ク

幹事氏原佐藏ハ昭和六年六月十三日卒去

南崎雄七ハ昭和六年七月一日幹事被仰付

野邊地慶三ハ昭和六年八月十日幹事被仰付

伊藤武彦ハ昭和六年十二月十八日岐阜縣知事ニ任セラレ幹事ヲ退ク

三浦直彦ハ昭和六年十二月二十四日内務書記官ニ任セラレ昭和七年一月十一日幹事被仰付

第二章 特別委員

(昭和七年三月三十一日現在)

一、衛生思想普及ニ關スル件

特別委員長
委員

- 三 田 宅 秀
- 磐 瀨 雄
- 永 本 井 潜
- 林 春 雄
- 宮 川 米 次
- 内 野 仙 一
- 北 島 多 一
- 佐 伯 矩
- 唐 澤 光 德
- 奥 村 鶴 吉

一、都市衛生状態改善ニ關スル件

特別委員長
委員

伯爵

- 横手 千代之助
- 宮 島 幹之助
- 柳 澤 保 惠
- 高 野 岩 三 郎
- 北 島 多 一
- 栗 本 庸 勝
- 矢 作 榮 藏
- 河 田 豊原 稼 吉
- 横 手 千代之助

一、乳兒及幼兒ノ死亡率低減ニ關スル件

特別委員長
委員

伯爵

- 柳 澤 保 惠

一、民族衛生ニ關スル件

特別委員長
委員

- 高 野 岩 三 郎
- 瀬 川 昌 世
- 北 島 多 一
- 佐 伯 矩
- 唐 澤 光 德
- 三 宅 秀
- 河 田 豊原 稼 吉
- 横 手 千代之助
- 龜 田 豊 治 朗
- 古 瀬 安 俊
- 三 國 敏 一
- 北 島 豊 多 一
- 馨 瀬 雄 一
- 永 川 井 昌 潜

一、農村衛生狀態改善ニ關スル件

特別委員長	伯	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨
委員	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川
	柳	澤	保	惠	岩	栗	大	岡	三	長	富	三	瀨	川

第三章 議事

第一節 會議ノ回数

特別委員會 計	總 會	昭和六年												計			
		四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月				
					四												九

唐 澤 光 德
 矢 作 榮 歳
 大 島 辰 次 郎
 橫 手 千 代 之 助
 宮 島 幹 之 助
 那 須 皓

第二節 議案ノ件數

種別	議案種別		計
	既決	未決	
總會			
特別委員會			
計			

第三節 特別委員會議事大要

一、衛生思想普及ニ關スル特別委員會

昭和六年七月二十七日午前十時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會
出席者 三宅委員長

- 永井、宮川、内野、北島、佐伯、唐澤各委員
- 赤木衛生局長
- 伊藤、白松、高野、南崎各幹事

櫻田、野邊地兩技師

議事ノ經過

委員長 開會ヲ告ゲ南崎幹事ヨリ衛生思想普及ニ關スル本委員會從來ノ經過ヲ報告シ
一、次ニ衛生讀本ノ編纂ニ關スル件ヲ議題トシ未稿ノモノハ執筆ノ促進方ヲ圖ルト共ニ委員長擔任ノ
モノハ執筆ニ當ル等ノ氏原技師物故ニツキ他ニ適當ノ人ヲ推舉セラレタシト委員長ヨリ希望アリ考
慮スルコトニ決定

一、次ニ小冊子ノ件ヲ議題トシ
未稿ノ分ハ促進方ヲ圖ルト共ニ更ニ左記ノ通り執筆ヲ委囑スルコトニ決定

- 1、アデノイドの話 久保猪之吉博士
- 2、精神衛生 植松七九郎博士
- 3、神經衰弱ノ話 森田正馬博士
- 4、胃腸病の話 宮川委員

一、次ニ宣傳ノ一方法トシテ衛生ニ關スル事項ヲ歌、レコード又ハラデオ等ニ依リ紹介シテハ如何カ
トノ提案アリ放送局ノ關係モアレバ研究スルコトニ決定

一、小兒ノ死亡率低減ニ關スル特別委員會ノ一事業トシテ唐澤委員考案ノ小兒傳染病豫防ニ關スル掛

圖ノ作成ヲ本特別委員會ノ一事業トシテ引繼ぎ出來上リ、且大日本私立衛生會ヨリ發賣シムル
コトニ決定
午前十一時三十分散會

二、民族衛生ニ關スル特別委員會

第四回

昭和六年七月二十七日午後二時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會
出席者 北島委員長

- 永井、三宅、三田、岡村、赤木、栗山、各委員
- 伊藤、白松、高野、南崎各幹事
- 樫田、野邊地、佐藤各技師
- 飯村、草間各防疫官

議事ノ經過

永井委員ヨリ滅種法 (Sterilization)ニ關スル海外文化國ノ現況、滅種ノ身體並精神兩方面ニ及ボス影響、滅種ヲ必要トスル社會上ノ理由、滅種ニ對スル批難等ニツキ講話アリ

午後四時散會

右講話ノ際配布シタル資料

一九二八年一月一日迄ニ北米合衆國州立病院ニ於テ施行セル滅種手術件數

州名	男	女	計
カルフォルニア	三、二三二	二、五八八	五、八二〇
コネチカット	八	二五〇	一五八
デラウエア	五七	二二〇	二七七
アイダホ	〇	〇	二一〇
インデアナ	一一八	二	一二〇
アイオワ	四三	一四	五七
カンサス	四三〇	二二七	六四七
メイン	〇	五	五
ミシガン	二〇	三八六	二〇六
ミネソタ	二二四	一八	二四二
モンタナ	二〇	一五	三五
ネブラスク	一〇九	一九九	三〇八

ニユーハンブシヤイヤ	〇四	二四二	三四六
ニユーヨーク	二一八	四二	四二
ノースダコタ	一七九	一五	二二二
オレゴン	〇	三三三	五〇二
ソースダコタ	〇	三三〇	〇
ウター	三三四	二六	六六四
ヴァージニア	一一一	八	三二九
ワシントン	二八	一九〇	二二八
ウイスコンシン	四、五二七	三、九九八	八、五二五
總計	一九二九年一月一日迄ニカルフォルニア州々立病院ニ於テ施行セル滅種件數	一五八	一五八
男	三、四二八	二、八二七	六、二五五
女	二、八二七	六、二五五	五、八二〇

第五回

昭和六年十月九日午後二時ヨリ東京府立松澤病院ニ於テ開會

出席者 北島委員長

三宅、三田、岡村、赤木、栗山各委員

伊藤、白松、高野、南崎、野邊地各幹事
林田、内藤各技師

同 病院視察

午後四時散會

第六回

昭和六年十二月十日午後二時三十分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 北島委員長

永井、瀨川、三宅、大野、三田、岡村、赤木、栗山、岩住、各特別委員

伊藤、白松、高野、南崎、野邊地各幹事

議事ノ経過ノ一覽ニマテテ

三宅委員ヨリ精神病ノ遺傳ニ關シ左如キ要綱ヲ以テ講話ス

- (一) 精神病ト言ヘバ世人ハ一ノ病ナリトノ誤解アル如キモ實ハ種類モ多ク、各病種ニ於テ遺傳ノ關係異ナルニヨリ豫メ精神病ノ一般ニツキ論說シ次ギニ
 - (二) 從來ノ精神病ニ關スル遺傳ノ學說ノ趨勢ヲ(イ)モーレルノ進行性變質論ヨリ出發シ、遺傳負因ノ危險率、各種遺傳因子ノ各親等ニ於ケル値價等ノ統計學上ノ調査、(ロ)メンデル式ノ研究(ハ)性格學ノ影響ヲ舉ゲ
 - (三) 晩近斯學ノ必要ト自己ノ經驗例證ヲ圖示シ
 - (四) 斷種法ト精神病學トノ關係ヲ述ベ
 - (五) 終リニ結論トシテ自己ノ所見ヲ同法ノ實施、但シソノ資格ノ嚴密ナルコトノ希望ヲ述ベソレ
- ニハ先ヅ本邦精神病院、國立精神病院ノ設立等ヲ目下ノ急務トスルコトヲ以テ結ベリ
- 午後四時散會

三、農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會

第七回

昭和六年七月一日午後一時四十分ヨリ中央會議所ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

宮川、佐伯、矢作、赤木、那須各委員

伊藤、白松、高野各幹事

南崎、野邊地兩技師

議事ノ經過

南崎技師ヨリ農村衛生狀態改善ニ關スル事項中

今度ハ飲料水ノ改善ニツキ御審議願ヒタシ御參考トシテ從來内務省及地方廳ニテ施行セル農村衛生狀態實地調査ノ結果ニ表ハレタル飲料水ニ關スル成績及先年同技師、渡歐實地ニツキ視察セル歐洲諸國ノ農村飲料水ノ狀況ニツキ報告

委員長 農村飲料水ノ改善ニツキ審議ニ入ルニ先ダテ實地ノ狀況ヲ視察シテハ如何カト諮リ滿場ノ贊

成ヲ得テ東京府下戸倉村ノ狀況ヲ來ル七月八日視察スルコトニ決シ尙飲料水ノ改善事項トシテ

1、井戸其ノ他飲料水ノ改善ニ關スル指針ヲ作成スルコト

2、井戸ノ改善其ノ他飲料水ノ改善ニツキ助成ノ途ヲ講ズベキコト

3、水道條例ノ改正

4、水道水源ノ保護

等ヲスベシトノ意見出デ午後三時三十分散會

第八回

昭和六年七月八日午前九時十八分新宿驛

委員長 柳澤伯爵

宮川、赤木、那須各委員

伊藤、高野、南崎各幹事

參集

前回ノ申合セニ依リ東京府西多摩郡戸倉村ニ於テ飲料水狀況視察會

午後五時散會

第九回

昭和六年九月二十三日午前七時五十五分止野驛

委員長 柳澤伯爵

宮川、佐伯、唐澤、矢作、赤木、横手各委員

伊藤、高野、南崎、野邊地各幹事

參集

千葉縣下左記町村ニ於ケル飲料水狀況視察會

印旛郡佐倉町

酒々井町

同 永治町

東葛飾郡船橋町

同 行徳町

同 南行徳村

同 浦安町

第十回

昭和六年十二月二十三日午後二時四十分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

宮川、栗本、佐伯、唐澤、矢作、西崎、那須各委員

高野、南崎、野邊地各幹事
飯村、草間兩防疫官

議事ノ經過

社會局福利課長藤野惠氏ヨリ東北及北海道ニ於ケル凶作地ノ視察狀況ニツキテ先ヅ青森縣下ノ狀況ニ關シ凶作ノ原因、狀況、被害者ノ生活狀況、保健上ニ及ボス影響及凶作ニ對スル救濟策ニツキ説明アリ次イデ北海道ノ狀況ニツキテモ同様説明アリ之ニ對シ委員長及委員ト藤野氏トノ間ニ左ノ質疑應答アリ

問 岩手等近縣ノ狀況如何

答 岩手、秋田兩縣トモ相當被害アルモ其ノ程度ハ輕ロシ

問 種々救荒食品ヲ攝ルヤウナルガ中毒ノ虞ナキヤ

答 聞カズ

次イデ栗本委員ノ發議ニテ此等凶作地ノ衛生狀態ハ憂慮セラルルヲ以テ先ヅ其ノ狀況視察ノタメ衛生局職員ヲ派遣シ其ノ復命ニ俟テ適當ノ對策ヲ考究スルヤウ特別委員會ノ決議ニヨリ當局ニ希望意見書ヲ提出スルコトニ申合セ

午後三時三十分散會

然ルニ當日大島衛生局長病氣缺席ノ爲メ翌二十四日高野幹事ヨリ大島衛生局長ニ對シ右特別委員會ノ希望意見ヲ傳達シタルトコロ衛生局長モ既ニ就任時ニ於テ同様ノ意見ヲ抱懷シ居タルコト前記即日南崎技師ヲ派遣スルコトトナリタル爲右特別委員會ノ決議ニ書面ヲ以テ提出スルコトハ中止列旨委員長ヨリ各委員ニ傳達サレタリ

第十一回

昭和七年一月十九日午後一時四十五分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長、柳澤伯爵

宮川、栗本、佐伯、唐澤、矢作、西崎、横手、宮島各委員

大島衛生局長

白松、三浦、高野、南崎、野邊地各幹事

議事ノ經過

(一) 委員長ヨリ前回ハ黒田待從ニ隨行シテ東北及北海道ハ凶作地ニ出張サレタル藤野社會局福利課長ヨリ右凶作地ノ狀況ニツキ聽取ノ結果本委員會ノ意見トシテ關係地ノ衛生狀態懸念セラル、ヲ以テ改メテ衛生局職員ヲ派遣セラレタキ旨當局ニ希望開陳ス處衛生局長モ既ニ同様ノ意見ヲ抱キ居ラ

レタル際トテ即日南崎技師ヲ派遣セラシメ其ノ視察談ヲ聴取スルニ同意スル意旨ヲ函達シテ
(二) 南崎技師ノ報告要領

一、山形縣 昭和六年ノ米作ハ平年作ニ比シ平均八分減大凶作以テ凶作トイフモ、非テ旁別ニ縣ニテモ對策ヲ講シ居ラス

二、秋田縣 昭和六年ノ米作ハ平年作ニ比シ平均一割七分餘減ニシテ七割以上減ノ町村二十ヶ所アルモ生活上今々困ルトイフ程度ノモノハ數多ク認メズ從テ別ニ凶作地トシテノ施設ヲ講シ居ラス

三、北海道 昭和六年ノ米作ハ平年作ニ比シ平均六割餘減ニシテ最モ被害甚シキ地方ハ上川支廳管内次イデ網走、空知、後志各支廳管内ナリ

對策トシテハ道廳ニ臨時凶作救濟事務局ヲ設ケ食糧給與、種苗給與、種籽資金貸付、肥料資金貸付、土木事業ノ起工、副業獎勵、兒童就學資金給與等ヲ實施シツツアリ

保健衛生狀態 濟生會、赤十字社支部、醫師會、産婆會等ト協力シテ傳染病患者ノ早期發見、醫療、助産ノ普及、榮養ノ指導ニ主力ヲ濺ギツ、アリテ今直チニ憂慮スベキ狀態ハ呈セザルモ從前ノ凶作ノ例ニ徴シ昭和七年ニ其ノ惡影響現ハレ傳染病患者ノ増加、夜盲症患者ノ發生、小兒及老人ノ死亡

率増加、榮養不良等ノ爲疾病者増加ノ如キ不良狀態ヲ見ル處アリ
凶作地ノ中心美深村、音更村ニツキ實地視察ノ狀況ヲ紹介シ舊正月頃マデハ燕麥、野菜、草根木實等ニテ生命ヲ繼ガンモ其ノ後カ寒心ナルコト病氣ニナリテモ醫師ニ罹レザルモノト産婆ニモ助産シテ貰ヘザルガ如キ窮狀ヲ述ブ

四、青森縣 昭和六年ノ米作ハ平年作ニ比シ四割七分餘ヲ減收ナルガ殊ニ津輕、三戸、北上ノ三郡於テ甚シク加フルニ不漁、林檎ノ不作等拍車ヲ加フル狀況ナリ

凶作ノ原因ハ東北及北海道トモ氣温ノ低冷ニアリ、實地ニ視察シタル所ニヨルト北海道ヨリモヤ、困窮ノ程度輕キモ働カントスルモ仕事ナク病人アルモ醫師ニ罹レザルモノ多シハ三

救濟方法トシテハ北海道ト大體規ヲ一ニス、保健衛生施設トシテハ縣ガ赤十字社支部ニ濟生會等ト協力シテ凶作町村五十八ヶ所ニ對シ巡回診療、二萬八千戸ニ對シ委託救療ヲ行ヒツ、アリ

五、岩手縣 昭和六年ノ米作ハ平年作ニ比シ一割一分減ハ八四、三一、八 四、一六
本縣ニテハ醫師會、赤十字社支部、濟生會、衛生會等ト協力シテ昭和六年七月頃ヨリ傳染病ノ豫防、施療券ノ發行、榮養知識ノ普及、冬季間簡易屠殺及自家用屠殺ヲ認ムル等逸早く對策ニ

留意シツ、アリ之ニ對シ二三ノ質問應答アリ
尙同技師引用ノ關係地ノ米ノ收穫ヨリ見タル比較及要救濟戶數割合ハ左ノ如シ

米ノ收穫ヨリ見タル比較

道	本年米收穫	昭和五年國勢調査世帯數	減收割合
北海道	二、七五七、八四六石	一、〇六五、九五六	六三・二三
青森	一、三〇五、四三三	六八四、三一八	四七・六
岩手	一、〇四二、三七三	九二四、八三〇	八八・三
秋田	二、〇九四、九五六	七三五、〇〇〇	七二・三
山形	二、〇四一、六七〇	八七二、六七〇	八三・三

要救濟戸數割合

道	要救濟戸數	總戸數	割合
北海道	四六、七八八戸	九〇九、七五八戸	五・一八%
青森	一八、一三四	二四八、三九一	七・三
岩手	七、五九七	四〇六、六六六	一八・九

(三) 大島衛生局長

凶作地ノ保健衛生状態ノ視察ヲ見ルニ至リタルコト先刻委員長ヨリオ話ヲ通ジテ凶作地方ノ救濟ニ就テハ内務當局ニ於テモ關係官廳ト協議シテ今後ノ對策ヲ講ズル管ナルモ相當長期ニ亘リ各方面ヨリ努力スルコトガ必要ト思ハルルガ差當リ衛生保健ノ問題ニツキ南崎技師ノ復命ニ基キ上司ニ伺ヒ衛生局長トシテ左記通牒ヲ發シタル次第ナリ又赤井宇社本部、東京ノ濟生會ニ協力方ヲモ依頼セリ尙農村衛生状態改善ニ就テモ今回ノ視察狀況ヲ聽キテ手懸リヲ得タル所ニ對シテ考ヘル此ノ問題ニ就テハコノ上トモ本特別委員會ニテ御審議ヲ願ヒ度シ又去ル十四日ノ長官會議ニ於テモ大臣ヨリ其ノ訓示中ニ特ニ農村衛生ノ改善ニツキ述べラレタリ併セテ申上ケ置クト述ベ

午後三時三十分散會

左記

衛發第十七號

昭和七年一月十八日

内務省衛生局長

北海道、青森、岩手、秋田、山形以上道縣長官殿

凶作地ニ於ケル衛生施設ニ關スル件依命通牒

貴管下凶作地ノ救濟ニ關シテハ既ニ各般ニ涉リ相當施設セラレヨシ業アル所、存候處凶作地住民以保

健衛生ハ其ノ影響スル所極メテ重大ナルモノ有之候ニ付此ノ際傳染病ノ豫防、凶作地ニ於ケル一般疾病者ノ救療又ハ食物ニ關スル榮養ノ改善等ニ付テハ特ニ周到ナル注意ヲ拂ヒ左記事項御考慮ノ上適當ニ措置相成度尙之カ實施ニ當リテハ貴地方ニ於ケル濟生會、日本赤十字社其ノ他公私社會事業團體等ノ活動ヲ促シ以テ救護上萬遺漏ナキヲ期セラレ度

記

一、傳染病ノ豫防

往年ノ東北凶作ニ際シ腸チフス、發疹チフス等ノ發生ヲ見タル例ニ鑑ミ今次ノ凶作ニ際シテモ融雪期後ニ於テ是等傳染病ノ發生ヲ豫想セララル、ヲ以テ之ヲ未然ニ防止スル様對策ヲ講セラル、コト尙防疫職員ノ増置ニ關シテハ目下考究中

二、凶作地ニ於ケル一般疾病者ノ救療

凶作地ニ於ケル一般疾病者ノ救療ニ關シテハ既ニ適宜方途ヲ講セラレタル向アルモ殊ニ山間僻阪地ニ在リテハ之ヲ徹底セシムルニ困難ナル事情可有之ニ付巡回診療其ノ他適當ノ方法ヲ講シ救療シ徹底ヲ期スルコト

三、凶作地ニ於ケル食物ニ關スル榮養ノ改善

榮養ノ不足ハ抵抗力ヲ減シ各種疾病ノ増發ヲ來シ殊ニ結核性疾患ニ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ凶作

地ニ於ケル榮養食竝缺食兒童ニ對スル學校給食等ニ關シテハ特ニ研究指導セラレタキコト

追テ此ノ問題ニ關シテハ榮養研究所ヲシテ實地指導ニ當ラシムル爲近ク所員ヲ派遣セシムルニ付充分之ヲ利用セラル、コト

